

平成23年3月11日 午後2時46分発生

東北地方太平洋沖地震の被害



平成23年3月11日、太平洋沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生しました。この地震により市内各地で道路が寸断され、青田地区では大きなため池の堤体が決壊し水があふれだしました。また、停電や断水、電話が不通になり、多くの家屋の瓦が崩れ落ちる被害が発生しました。本宮第二中学校では南校舎の1階部分が押しつぶさ



(上)本宮第二中学校の南校舎。
(下)青田地区の市道では下水道管のマンホールが隆起(写真右)したり、陥没した道路に車が巻き込まれた。

れた形となり、市の多くの施設が被害を受けました。市では午後2時50分に災害対策本部を設置し、防災無線で余震に気を付けるよう呼びかけるとともに、職員によるパトロールと被害調査を実施し、被害の全容把握に努めました。



平成23年
3月30日発行
本宮市
秘書広報課
☎33-1111

現在の被害の状況

今回の地震による人的被害の報告はありませんでした。また、現在は電気、水道、電話は全て復旧しています。しかし、ガソリン・灯油などの燃料が不足している状態が続いています。

本宮市災害対策本部がまとめた3月28日現在の被害の状況は、次のとおりとなっています。

- 建物等の被害相談受付件数 821件
- 道路通行止め 17カ所
- 避難所設置数 2カ所
- 高齢者ふれあいプラザ (荒井) 5人
- 県立本宮高校 149人

建物等の被害は、引き続き調査中です。

震災により被害を受けられた方の相談窓口を開設中です。本宮市役所または白沢総合支所へおいでください。

福島第一原子力発電所

放射能漏れ事故

東京電力福島第一原子力発電所は、3月11日発生した東北地方太平洋沖地震による巨大津波の被害を受け、原子炉の緊急冷却装置を起動させるための発電機が故障したため、原子炉内の温度が上昇し、放射能漏れ事故を起こしました。

本宮市は、第一原発から45キロメートル以上の距離にあり、屋内退避の対象地域から外れています。

(放射能関連記事は裏面をご覧ください)

高松市長から

市民の皆さまへ



この度の震災におきまして、被災されました皆さまに、心よりお見舞いを申し上げます。

震災から約20日が経過し、ガソリンなどの燃料不足や原発事故による放射能の影響が懸念される中、市民の皆様は冷静な行動に、御礼を申し上げます。

さて、心配されております環境放射能につきましては、福島県が測定した27日午後3時11分における本市の測定値は、2.98マイクログラムあたりであり、健康に影響のないレベルであります。この数値は、健康に影響の無いレベルであります。なお、環境放射能の測定につきましては、市として近日中に測定器を準備し、毎日の測定値を迅速にお知らせしたいと考えております。

本市の水道水につきましては、国の検査の結果、基準値を大きく下回っており、安全が確認されましたのでご安心いただきたいと思います。

しかしながら、厚生労働省の調査において、市内で生産された「茎立菜」から、基準値を超える放射性セシウムが検出されました。摂取しても、直ちに健康に影響が出るレベルではありませんが、念のため摂取を見合わせていただきますようお願いいたします。

この事態の早急な収束と対応を国に要望しておりますことをご報告いたします。

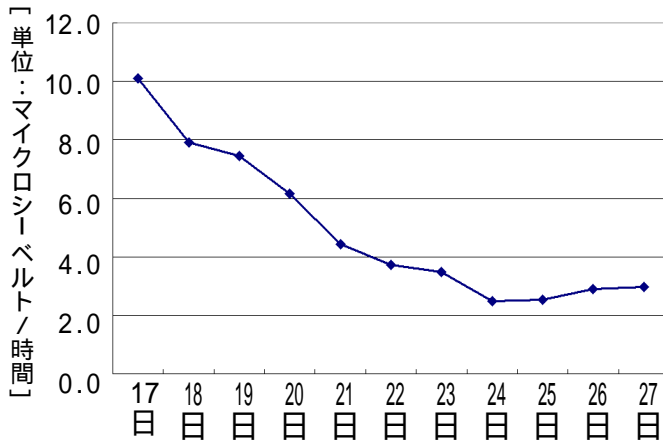
市といたしましては、引き続き情報の収集に努めながら、適切な対応を行ってまいりますので、市民の皆様には、冷静に行動いただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

■大気中の放射能

健康に影響のないレベル

福島県が測定した本宮市の大気中の放射能（環境放射能）の測定値は、3月17日午後8時43分に10・1マイクロシーベルトを記録し、その後徐々に数値は下がり、27日午後3時11分現在では、2・98マイクロシーベルトとなっています。この数値は健康に影響ないレベルです。

【本宮市の環境放射能測定値】



測定日	数値
17日	10.10
18日	7.92
19日	7.46
20日	6.17
21日	4.43
22日	3.72
23日	3.47
24日	2.48
25日	2.52
26日	2.90
27日	2.98

単位：μS/h

■水道水中の放射能

基準値以下、安全です

3月21日に政府の原子力災害現地対策本部が調査した本宮市の水道水の放射性物質の量については、国が定める基準値を超えないことから、飲んでも問題はありません。また、井戸水については、時間をかけて浸透しながら自然にろ過されて地下水となり、通常はふたが設置されていることから、水道水より安全と言われています。

【本宮市の水道水中の放射性物質】

	単位：Bq(ベクレル)/kg	
	放射性ヨウ素	放射性セシウム
もとみやクリーンセンター	21	検出されず
南消防署	50	8.9

指標に基づく飲料水の基準は、放射性ヨウ素が300ベクレル/kg（乳幼児は100ベクレル/kg）、放射性セシウムが200ベクレル/kgとなっています。

■食品中の放射能

基準値を超える放射能検出

3月23日、厚生労働省は福島県内で採取されたホウレンソウなど葉物野菜から、基準値を上回る放射性物質が検出されたと発表しました。3月22日に採取された本宮市産のクキタチナからも基準を1.64倍上回る量の放射性物質が検出されました。これを受けて国は福島県に対し葉物野菜とブロッコリーなど花蕾（からい）類について、出荷制限と摂取制限を指示し、現在市場には流通していません。

放射線健康リスク管理アドバイザー講演会を開催

3月24日に、「福島原発事故の放射線健康リスクについて」と題した講演会を大玉村で開催しました。この講演会には、福島県放射線健康リスク管理アドバイザーの高村 昇氏（長崎大学大学院教授）を招いて、放射線・放射能の健康に対する影響について講演いただきました。講演では「今回の原発事故での健康への影響はない。今後も心配ないのではないか。医療従事者も過敏な反応をしないことが重要」と話されていました。講演の内容や、質疑の中から一部をご紹介します。

【講演より】

汚染のイメージ

火山灰が、被服に付着したイメージであり、衣服は払い落とし、露出部分は洗うことで概ね大丈夫。食物も一緒であり、規制値遵守の必要はあるが、野菜も洗えばかなりの部分が（90%程度）を落とすことができる。

水について

生活用水で1000～3000ベクレルの値は、心配ない。乳幼児への配慮のみを適正に行えば大丈夫。少し位飲ませたとしても心配ない。これらについては、正確な情報を収集していくことに尽きる。

【質疑より】

Q：登下校など通学は安心か？屋外（体育、公園での遊び等）での活動は？

A：1時間外出しても影響はない。早く収束して欲しいがモニタリングを注視すること。半減期もあり、過度の心配はない。

Q：浄水器をとおした水は大丈夫か？

A：ヨウ素は水溶性であるので、浄水器の有無で判断しない方が良いのでは。

Q：放射線はどれ位飛ぶのか？

A：どういうもので遮へいするかによって違う。一般的には、距離の2乗に反比例し、放射線を出し続ける時間に比例する。

広報もとみや4月号は、地震の影響により発行中止となります。